



2018年

人権一口講座



大切な小さな命

今年の夏はこれまでにない暑さで、ニュースでも毎日のように熱中症の話題が報道されました。子どもたちにとって楽しい夏休みもあとわずかです。昨年、ちょうどこの時期に親子陶芸の作品を取りに来た小学生に何気なく「宿題終わった。」と質問したら、子どもの顔が曇ったのがわかりました。隣にいたお母さんが「さつき、ここに来る途中、宿題が終わってないから叱られていました。」と笑いながらおっしゃいました。夏休み終わり間際になって自分もあわてて日記を書いていたのを思い出しました。

宿題が終わっていない子どもにとっても憂鬱な時期ですが、ここ数年この時期になると毎年報道され、注意喚起されるのが子どもの自殺です。自殺対策白書によると18歳以下の自殺者において、過去約40年間の日別自殺者数をみると夏休み明けの9月1日に最も自殺者が多くなっているのです。2016年には320人の小中高生が自殺で亡くなっており、小学生が12人、中学生が93人、高校生が215人で、3分の2は男子だったそうです。日別に自殺者を見ると、学校段階別では、中学生と高校生が9月1日で、小学生は11月30日の自殺者数の割合がもっとも多いようです。旬別に自殺者数をみると、小学生は3月上旬、中学生は9月上旬、高校生は4月中旬が最も多いようです。

警察庁の統計によると、2016年の自殺の原因(複数の場合あり)でみると「学力不振」など学校の問題が36.3%で最も多く、「親子関係の不和」など家庭問題が23.4%、「うつ病」など健康問題が19.7%と多岐にわたります。学校問題のうち、いじめが原因とされたのは6件(19%)だそうです。

お子さんが学校に行くのをしぶってはいませんか。夏休みの宿題が終わっていないからだと決め付けるのではなく、お子さんの気持ちに寄り添って、行きたくない理由を聞くことが大切かもしれません。子どもの中には、言いたくなかったり、自分でも心の整理がつかずわかっていかなかったりすることもありますが、親としてはもやもやするところもあると思います。お子さんを見守り続け、答えがでるまでじっくり待つことも必要かもしれません。

未来ある子どもたちが自らの命を絶つ悲劇が繰り返されないよう、家庭はもとより、学校や地域が一体となって子どもたちを見守っていく必要があります。



(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」九月号より)

短いメッセージ

近所の人「行ってらっしゃい。」
照れくさいけど私も笑顔で「行ってきます。」

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 武蔵中学校 3年 和田百代さんの作品より